

平成 2 7 年度

地球環境「自然学」講座

第 4 回

テーマ

「ニュージーランド、自然と人間の距離」

講師

リアルニュージーランド代表

藤井 巖

平成 2 7 年 5 月 2 3 日（土）

N P O 法人シニア自然大学校

講師プロフィール

藤井 巖 (Fujii Iwao)

(リアルニュージーランド代表)

学歴等

1966 年 7 月：広島県竹原市生まれ（48 歳）

1985 年 3 月：私立鹿児島・ラサール高等学校 卒業

1990 年 3 月：東京大学法学部 卒業

1990 年 4 月：ゴールドマン・サックス証券会社 東京支店 入社

2002 年 4 月：ゴールドマン・サックス証券会社 東京支店 退社

2002 年 5 月：J.P.モルガン証券会社 東京支店 入社

2004 年 6 月：J.P.モルガン証券会社 退社

2006 年 3 月：有限会社 Land CLOUDS 設立 Managing Director 就任

2006 年 10 月：New Zealand に移住

2007 年 2 月：Land of CLOUDS NZ Limited 設立
Managing Director 就任 現在に至る

実績等

2005 年：シーカヤックの単独航で沖縄本島一周

2008 年：九州本島一周約 1,200km を漕ぎきる

その他

※シーカヤックでは上記以外にも与那国島から西表までの 80km 無寄港遠征や
対馬から釜山までの対馬海峡横断遠征に参加

※ニュージーランド全土のトレッキング・コースに詳しく、また同国のワインや
毎産物等、美味しいものに対しても熱心な研究家

「ニュージーランド、自然と人間の距離」

藤井 巖

リアルニュージーランド代表

日本とよく似た緯度に位置するニュージーランドの自然は、日本の自然に似通っている部分がたくさんあります。季節も四季があり、冬には雪も降れば、夏の暑い陽射しを感じる時期もあります。似ている自然環境だからこそ、その対比の中で日本との違いが浮き彫りになることがあります。

自然の大切さということは、知識として教えられる部分もありますが、小さなころの原体験として、感じながら身についていく部分も大きいかなと思います。きっと、みなさんも小さなころに野原や田んぼ、そして川辺や海辺で遊んでいた体験がおありかなと思います。私自身も、九州の片田舎、福岡県大牟田市で育ちました。大牟田市の中でも私が育ったところは、まだ田んぼや畑が多く、裸足で学校に通っていました。もちろん、学校が終わったら、そのまま川でじゃぶじゃぶしたり、森に入ったり、そして田んぼで遊んだり。今の日本ではそういった外で遊ぶ子供の数は減ってしまいましたが、ニュージーランドに来た時にびっくりしたのは、今でも外で、それも裸足で遊ぶ子がとても多いことでした。

実は、ニュージーランドは自然破壊の国です。1840 年ごろに多くの移民がヨーロッパからこの国へと移住しました。彼らは深々と繁った原生林を次々となぎ倒し、そこを牧羊地と変えていきました。森林の国土に占める割合はどんどん減っていき、そこに住んでいた鳥たちの数も種類も激減してしまいました。原生からいる鳥類の絶滅の数としては、世界最高という不名誉な数値があるほどです。

それでも、ニュージーランドが素晴らしいと思うのは、いろんな近代化が進む現代において、その自然破壊の流れを断ち、自然保護へと大きく方向変換をしたことです。それは、「住みやすさ」や「便利さ」と同じくらいに、もしくはそれ以上に、次世代に繋がる「自然」という大きな遺産を重要だと思っているからこそかと考えます。ニュージーランドでは、日本で言う「環境省」とは別に、「自然保護省 Ministry of Conservation」が設立されました。自然保護ならびに、自然の有効活用を考える省です。

それでは、自然の有効活用というのはどういうことが主になっているのでしょうか。ここで私がキーワードとして考えるのが、「自然と人間の距

離」です。自然を、たんなる綺麗なものと捉えるのではなく、人間もそこの一部だと認識させるということかと思います。そのために、そこに住む人々がいかに「楽しく」自然を楽しむことができるのか。そのことをとても重要視されています。自然は、もちろん厳しい部分もありますし、時には大きな危険も含んでいます。しかし、それを「危ない」として対岸のこととしてしまわないで、それについても考え、準備し、そして対面することで、それぞれの人が自然を身近に感じ、その感覚から、おのずから自然保護を感じてほしいという趣旨かと考えます。

ニュージーランドには 14 の国立公園があります。そして無数の、本当は無数の自然保護地区があります。その管理方法はすごくよく考えられており、とても積極的です。もちろん国家財政の中での活動ですので、財政面での苦労はあるようですが、コミュニティからのボランティア等も活用しながら、自然保護に取り組み、そして自然との触れ合いの場を提供しています。もちろんニュージーランド以外の国でも、同じような取り組みをされているところも多いかと思いますが、450 万人の小さな国で、これだけの自然に対する大きなオペレーションをしている国は稀有だと考えます。

私が住むのは、南島の北端にあたるネルソンという小さな街の郊外です。3 つの国立公園に囲まれた、海と、山と、川と、湖と、素敵な森がたくさんある素晴らしいところです。そのネルソンを中心に、ニュージーランドで暮らしながら感じたことをみなさんと共有できればと思っています。